



## 「かさぼうしのいえ」

### Back ground

敷地は、能登島の先端、今年1月に大地震のあった珠洲市である。敷地周辺集落は全壊した。復興が進まぬゆえ周辺の集落の住人は移住したが、施主はここに住み続けることを決意した。施主は、近くで賃貸住宅に住みながら、週末この家に住むというライフスタイルに変えるそうだ。施主が言つた、「家は小さくてよい。ただ能登の大自然を感じられる家がほしい」と。

家が小さいからこそ、敷地全体、いや、周囲さえもが家だと考える錯覚をおこしてしまうような小さな小ささでもマイナミックな広がりのある家がよいではないかと考えた。

ピクニックをするように、その時の気分での生活を楽しむような環境装置としての家。小さいからこそ、外部も含め家となるので、住人自らが暮らしを考え、自分に合った生活を模索し楽しむことができる。また、河川付近に位置する敷地の特徴である「斜面」に着目、斜面を活かした建築のあり方を模索したいと考えた。

### Concept

このいえは、ゆるやかな斜面上の上にふわっと傘を置いたような建築である。傘の主軸には、北山丸太を使用している。美観や強度を兼ね備えた北山丸太が良いと考えた。敷地の斜面も建築の「床」となるので、斜面の勾配によって様々な居場所ができる家となる。小さいからこそ楽しい家は、家の内や外に色々な居場所が必要なため、とても魅力的である。また、斜面を大胆に建築の「床」として利用することで、周辺全体が自分の敷地のような広がりのある気分になる。これは、1敷地1建物という建築の概念を覆す考え方である。

そんないえは、斜面と上部の屋根がつくりだす半屋外とも呼べる不思議な空間をつくり出し、住人に様々な居場所を提供するのである。

この「かさぼうしのいえ」を通して、能登の大自然を感じながら、いざという時は、さっと外に逃げ出しきれる暮らしを実現することを、少しでも不安を和らげながら暮らせる環境を整える住宅ができるよとい考えて設計している。

